

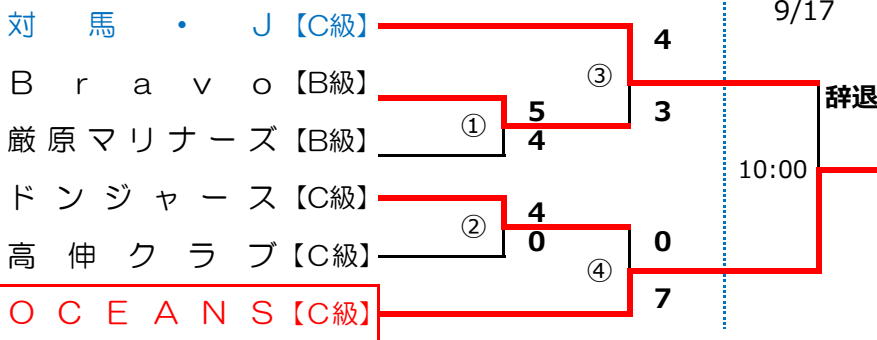
第28回 対馬軟式野球選手権大会

第73回長崎県軟式野球選手権大会・対馬予選会

会期＝令和5年9月3日(日)、17日(日)

会場＝美津島野球場

不参加チーム 豊玉町野球部、球王クラブ、対馬ビルズ、美津島ニューベアーズ、上対馬北斗クラブ



OCEANSはチーム創設年で対馬選手権大会の優勝。10月28日から佐世保市ほかで開催の県軟式野球選手権大会に対馬支部代表で参加する

①【一回戦】09:27～ 1時間36分 6回時間切れ

Bravο	100 130	5	【本】小田
厳原マリナース	001 120	4	

先頭の山口が左中間打し二、三盗後に井村の中安打で先制したBravοは、四回先頭の井村が豪快に左フェンス越え。五回には先頭の山口が四球、二盗後に犠打三進し山代の左適時打。延塚も左安打の一二塁に小田の右中間打で一走も還り3得点し突き離れた。

マリナースも初回に先頭が四球。二盗と暴投で三進したが無得点。三回に先頭の黒岩が遊内野安打。小松の中安打に高松の一塁内野安打で無死満塁に武本の三ゴロが野選で1得点。続く無死満塁は後続の3人が倒れた。四回は先頭が悪送球二進と三盗後に黒岩の三ゴロ送球の間に三走が還り同点とした。五回は高松の先頭内野安打から三進し阿比留の適時内野安打

【Bravο】	打安点球	【厳原マリナース】	打安点球
④ 山口 真吾	2 1 0 1	⑧ 小松 蓮	3 1 0 1
⑧ 井村 昭洋	2 1 1 1	⑥ 高松 翔	4 2 0 0
② 山代 毅	2 1 1 2	⑦ 武本龍太郎	2 0 1 0
① 延塚 敬志	2 1 0 1	⑨ 上原 有人	3 0 0 0
③ 小田 劍生	3 2 3 0	③ 阿比留隆太	3 1 1 0
⑥ 鳥羽 涼介	3 0 0 0	② 坂上 海翔	2 0 0 0
⑦ 眞木 悠吾	2 0 0 1	① 立木 徹	3 0 0 0
⑨ 多田 康佑	2 0 0 0	④ 瀬谷 友啓	3 0 0 0
⑤ 小宮 博輝	3 0 0 0	⑤ 黒岩 克成	3 1 1 0

犠3振2残7併1 21 6 5 6 犠1振8残5併0 26 5 3 1

【審判】松尾吉範、西川典夫、松本拓之、春田龍馬

と二盗後に二つの暴投で還り1点差までしたが…。

②【一回戦】11:15～ 1時間15分

高伸クラブ	000 000 0	0	【本】市山
ドンジャース	001 120 X	4	【二】中島、築城

三回のドンジャースは先頭の松島が右中間打し暴投三進後に中島が右中間二塁打。四回は先頭築城の右線二塁打からの一死三塁に平松の左適時打。五回には中島四球の二死一塁に市山が左中間フェンス越え2ランで4点差をつけた。

高伸クラブは六回の三者凡退を除いて、散発3安打に2四球と3敵失走者を出したが本塁が遠く、初回に先頭から敵失と四球の無死一二塁を続ける二ゴロの二三塁から後続二者が内野飛に倒れて先制機を逸したのが痛かった。

【審判】波多野幹治、武本龍太郎、川崎仁、神宮大司朗

【高伸クラブ】	打安点球	【ドンジャース】	打安点球
⑤ 三槻 伸也	4 0 0 0	⑥ 中島 泰志	2 1 1 1
③ 小宮 良太	3 0 0 1	④ 松村 直哉	3 0 0 0
⑥ 斎藤 良樹	3 1 0 0	① 市山 和希	3 1 2 0
② 小宮 直人	2 0 0 1	② 築城文士郎	3 1 0 0
① 高原 吉弘	3 0 0 0	③ 阿比留正臣	3 0 0 0
⑧ 安木 和也	3 0 0 0	⑨ 平松 馨	2 1 1 1
⑨ 笠松 宗馬	2 0 0 0	⑤ 阿比留直樹	3 0 0 0
9 山下 祐喜	1 0 0 0	⑦ 松島 泰史	2 1 0 0
⑦ 初村 脩兵	2 1 0 0	⑧ 大石 孝徳	2 0 0 0
④ 斎藤 啓太	2 0 0 0	犠0振2残3併0	23 5 4 2
4 東川 昌平	1 1 0 0		

犠0振3残8併0 26 3 0 2

③【準決勝】12:44～ 1時間44分

対馬・J	000 002 02	4	【本】財部仁
Bravο	110 000 01	3	【三】財部晃、鳥羽

延長8回はタイブレーク

二回に原田、財部仁の連続安打で一死後の投犠打で同点機を作った対馬・Jだったがここは無得点。だが、六回に黒岩の二塁内野安打から二死後に財部仁が左フェンスを高々とライナーで越える同点2ラン。財部晃も右線三塁打で続いたが後続は無かった。七回に先頭の井が内野安打し二盗を決めたが後続3人が倒れて、延長八回は無死一二塁タイブレーク。黒岩の投犠打と四球の満塁に財部仁が右越え2点二塁打。財部晃の打球は遊越えライナーかと思えたが好守に遭い併殺。

Bravοは初回に先頭の山口が左前打。二、三盗後に延塚の左安打。二回も先頭鳥羽が左中間三塁打。四球の一三塁で二盗死の間に三走が還り序盤で2点差を付けた。三～七回は1安打2四球走者も併殺を喫するなど好機を作れずに、

【対馬・J】	打安点球	【Bravο】	打安点球
⑨ 坂上 翔夢	4 0 0 0	⑥ 山口 真吾	2 1 0 2
② 一宮 努	4 0 0 0	⑧ 井村 昭洋	3 0 1 0
③ 村井 英哉	2 0 0 0	⑦ 山代 毅	3 1 0 0
3 黒岩 到	1 1 0 0	① 延塚 敬志	3 1 1 0
⑤ 原田 武茂	3 1 0 1	③ 小田 劍生	2 0 0 1
⑧ 財部 仁	3 3 4 1	④ 鳥羽 涼介	3 1 0 0
⑥ 財部 晃	3 1 0 1	② 眞木 悠吾	2 0 0 1
⑦ 阿比留新吾	2 0 0 0	⑨ 多田 康佑	3 0 0 0
① 井 浩	3 1 0 0	⑤ 小宮 博輝	3 0 0 0
④ 多田 直樹	3 0 0 0	犠1振4残4併2	24 4 2 4

犠2振3残7併1 28 7 4 3

【審判】西川典夫、吉野徹、山下祐喜、高原吉弘
無死一二塁の延長八回は一死後に死球の満塁で井村は中飛。三走はタッチアップで還ったが返球が三塁に送られ、二走が塁上死の併殺を喫して敗戦した。

④【準決勝】14:44～ 1時間16分 6回コールドゲーム

ドンジャース	000 000	0
OCEANS	000 052x	7

【三】一宮
【二】春田朱

OCEANSは四回までに初回一死後に春田朱の二塁打や二回は春田一の先頭安打を活かせずに、四回も先頭から敵失と死球に暴投の無死二三塁をドンジャース先発の市山に後続を抑えられていた。五回に代わった中島から先頭が死球。犠打と死球の一二塁から春田朱と春田剛の連続中適時打。続く二三塁に一宮が二者を還す三塁打。さらに投ゴロ送球の間に一宮も還りこの回に5得点。六回には敵失と2死球の無死満塁に春田龍がストレートの四球押し出し。春田朱の中飛が犠飛となり7点差コールド。

ドンジャースは二回一死後に市山が、二回は先頭の阿比留正が中安打するも三進できず、五回は中安打大石が捕逸二進し暴投で三塁を廻り本塁突入も憤死。六回に代わった春田朱

【ドンジャース】 打安点球 【OCEANS】 打安点球

⑥1 中島 泰志	3 0 0 0	⑥ 春田 龍馬	2 0 1 2
④6 松村 直哉	2 0 0 1	②1 春田 朱哉	3 2 2 0
① 市山 和希	2 1 0 0	①5 春田 剛志	3 1 1 0
4 永留 潤也	1 0 0 0	⑧ 一宮 智哉	2 1 2 1
② 築城文士郎	3 0 0 0	③ 春田 一成	3 1 1 0
③ 阿比留正臣	3 1 0 0	⑤2 小宮 祐希	3 0 0 0
⑨ 平松 馨	2 0 0 0	⑦ 松本 拓之	3 0 0 0
⑧ 大石 孝徳	2 1 0 0	⑨ 國分祐太郎	1 0 0 0
⑦ 松島 泰史	1 0 0 1	9 港 隆成	0 0 0 2
⑤ 阿比留直樹	2 1 0 0	④ 原田 健伸	1 0 0 1
犠1振9残6併0	21 4 0 2	犠2振2残6併0	21 5 7 0

からも先頭四球と敵失で二死二三塁と攻めたが無得点。

【審判】川崎仁、多田康佑、松尾吉範、鳥羽涼介

対馬選手権大会は第28回大会を迎えたが、以前は対馬町村会長杯野球大会と称していた。長崎県軟式野球選手権大会は昭和26年に始まったが、昭和44年までの19大会で対馬地区から参加したのは6大会(うち棄権1)のみであった。昭和45年から毎年参加するようになり、その予選会を行っていたが、50年に対馬町村会から優勝トロフィーが贈られ『対馬町村会長杯…』となった。

対馬6町代表チームの対抗戦として、平成7年の第21回大会まで行っていたが、翌8年から町代表チーム対抗で無く対馬連盟登録全チーム参加によるトーナメント戦とし、大会名も『対馬選手権大

会』と称した。初年度の参加は登録20チームで17チームが参加し、初日は2会場で二回戦9試合。第二日に三回戦と準決勝の6試合を1会場で行ない、第三日に決勝戦(9回戦)とした。初代の対馬選手権チャンピオンを決める一戦は敵原レパーズが六回に2点を挙げ、エースの木屋が上対馬ライオンズを9回封じて2-0で制した。

平成9年から14年までの6年間は20チーム越え(最高22)の参加となったが年々減少し、26年に10チームとなり、27年には8チーム(不参加4)となった。

平成8年以降の県選手権大会の対馬代表の戦績

回	年	予選会	県選手権大会参加	戦績
1	8年	17	敵原レパーズ	7-12 西海棒球队(西彼)
2	9年	22	大洋真珠クラブ	4-5 鹿町バンビーズ(県北)
3	10年	22	上対馬メッツ	3-7 ソニー長崎(諫早)
4	11年	21	豊玉町野球部	7-1 島クラブ(平戸) 0-3 親和銀行(推薦:前年優勝)
5	12年	21	上対馬ライオンズ	4-8 福江球友会(福江)
6	13年	20	上対馬メッツ	0-1 波佐見野球クラブ(東彼)
7	14年	20	敵原レパーズ	1-4 若松クラブ(上五島)
8	15年	19	敵原NYビーンズ	0-2 波佐見鴻ノ巣クラブ(東彼)
9	16年	18	敵原マリナーズ	5-0 県職五島(福江) 2-3 親和銀行(推薦:前年優勝)
10	17年	18	上対馬クラブ	5-2 平戸クラブ(平戸) 1-8 TEAM橋口(大村)
11	18年	17	敵原NYビーンズ(BEST4)	4-1 たちばな信用金庫(諫早) 5-0 南串野球部(県南) 0-9 三菱重工長崎(推薦:前年優勝)
12	19年	16	制覇クラブ	0-2 親和銀行(推薦:前年優勝)
13	20年	14	豊玉町野球部	0-8 親和銀行(佐世保)
14	21年	13	敵原NYビーンズ	2-6 アイケン医院(推薦:前年優勝)
15	22年	14	60回 豊玉町野球部	4-5 若松クラブ(上五島)
			記念大会 上対馬メッツ	2-6 舩田グループ(上五島)
16	23年	13	敵原NYビーンズ	0-4 JF長崎県漁連野球部(諫早)
17	24年	11	敵原マリナーズ	1-8 親和銀行(推薦:前年優勝)
18	25年	11	敵原マリナーズ	2-7 島原市役所野球部(島原)
19	26年	10	制覇クラブ(BEST4)	4-2 長崎三菱自動車販売 5-3 南原クラブ(推薦:大村) 0-2 親和銀行(前年優勝)
20	27年	8	上対馬メッツ	0-10 親和銀行(推薦:前年優勝)
21	28年	8	敵原マリナーズ	0-4 三菱重工長崎(推薦:前年優勝)
			対馬選手権は制覇クラブが優勝。県選手権大会は翌週開催の県民体育大会とのダブル出場のため辞退。 対馬選手権準優勝の敵原マリナーズが県選手権大会に出場した。	
22	29年	8	制覇クラブ	4-6 J・POWER' S松島(西海)
23	30年	7	制覇クラブ	3-1 海自大村(大村) 0-5 三菱重工長崎(A級推薦)
24	元年	5	制覇クラブ	9-3 Beams(島原) 1-5 親和銀行(A級推薦)
25	2年	7	敵原マリナーズ	0-7 長崎サニクリーン(A級推薦)
26	3年	5	制覇クラブ	3-0 崎山クラブ(福江) 2-1 佐世保市役所 0-9 長崎サニクリーン(A級推薦)
27	4年	5	Bravo	予選会決勝を敵原マリナーズが辞退し、制覇クラブが代表権を得たが、制覇クも辞退。 準決勝で制覇クに敗戦のBravoが県大会に参加 3-4 松浦ベイスターズ
28	5年	6	OCEANS	